

攝丹地方の淡水魚に就いて

樋口 繁 一

この度樋口先生は上の題のもとに各種毎に立派な図を添えて20ページ附録として方言と分布の表をつけてパンフレットを出版された。同氏の許しを得て一部分を転載することにした。各論については撰丹地区高校研究紀要(I)を参照されたい。(室井 純)

1 緒 言

撰丹地方の淡水魚は天然のもの10科33種で、移殖又は侵入せるものを加えると12科38種である。河口近くは汽水魚がいるが、今回は純淡水魚にとどめた。当地方の魚類の目録は不幸にまだ見たことがないので、2、3年前から注意するうちに簡単ではあるが一先ず報告し、将来補つて完全なものにしたいと思つて

2 攝丹地方諸川の概説

当地方は兵庫県の東部で摂津、丹波にまたがり大阪湾から北100kmの区域で、主な河川は、日本海に注ぐ由良川、播磨灘に注ぐ加古川、更に大阪湾に注ぐ武庫川及び猪名川等である。これを二大別すると丹波即ち加古川水系(多紀、氷上郡)と摂津即ち武庫川、猪名川水系(有馬、川辺、阪神)に区別することが出来る。この両地区を比較すると、ウグイは加古川水系に限られ、カネヒラは武庫川水系に限られている。勿論、千刈神戸水道水源地にはウグイ、ニゴイがいるが、これは水産試験場の放流であつて天然ではない。次にアブラハヤ、タビラ、オヤニラミ等は前水系に多く、武庫川、猪名川水系では、特に稀なものである。相接するこの両地区を比較してみても、これ程の差異があるのに驚く。更に精密な調査をすれば、色々の相違があるに違いない。なお、今回調査した場所は、

氷上郡一佐治、柏原、黒井、久下
多紀郡一篠山、日置、大山、後川
有馬郡一三田、本庄、高平、大川瀬
川辺郡一西谷、六瀬、一庫、千刈水源地及び宝塚、
川西、西宮市、生瀬
其の他数箇所であつた。

3 魚類の生態的分布

撰丹地方の河川は一般に小さく、水温水流共に上流と河口との比は大差がない。従つてそこに棲む魚類も大差がないが、今一例を武庫川について一番上流から河口迄の生態分布について述べてみる。武庫川は河口鳴尾より宝塚、生瀬、三田、広野、古市を経て篠山に至るのが本流で、支流に道場より千刈水源地を経て、川

辺郡西谷、有馬郡高平、小野村を過ぎ、丹波多紀郡後川(しわかわ)を経て大阪府豊能郡西能勢村天王に到るものがある。ここ最上流の天王は海拔500mの高原で、数十戸の高野豆腐で有名な村落である。山間の溪流は酸素の含有量多く、水温も低い。この村に多い魚類はアブラハヤ、アメノウオ(ヤマメ)、カワムツ、カジカ、ホトケドジョウ、アカザ、シマドジョウ等が多く、溪流を下るにつれてオイカワ、モツゴ、ウナギ、ギギ、ナマズ、カマツカ、ムギヅク、シマドジョウ、ドンコ、ヨシノボリ等がある。溪流を下つて後川村に至るも凡そこんなもので、更にフナ、ドジョウが増して来る。更に溪流10kmを下つて有馬郡高平村に來るとオイカワ(ハヤ)、カワムツ(モト)、ムギヅク、カマツカ、ナマズ、ギギ、ドンコ、シマドジョウ、スナヤツメ(砂八目)、フナ等が多く、アブラハヤやヤマメは見られなくなる。更に下ると、千刈水源地である。この水源地は高さ50mの堰堤のある人造湖で、大正10年以来30の歴史のある大養魚池で、ここに放流された魚類も多く、繁殖したものもあり、不適なものもあつた。まず、ワカサギを挙げると、これは上流有馬郡高平村で、海に遠く鮮魚に恵まれないのでワカサギの養殖を思いつきこれを放流したのが下流の水源地に固着したのである。元来鮎は北国の河川の溯河魚であるがこれが適したのである。毎年春の彼岸頃に羽束川に産卵のため溯河するのをとるのであるが1年300匹ぐらいである。次に川鯿を放流し、更にウグイを放流したがあまり振わなかつた。ホンモロコ、テナガエビも移殖したが適さず、年々繁殖してはいるが、僅かに漁獲する程度である。ウナギはダムのため上昇出来ないだろうというので、数年に一回ずつウナギの稚魚を放流していたが、最近あまり放流しないのに上流にいるから、或は大雨のとき川から溯上するものと思われる。更にこの事は調査の要がある。次に昨年、琵琶湖の小鮎を放流したが、鮎は一年切りの魚であるのに本年は少しではあつたが若鮎が高平村に上つた。鮎は川で産卵して後海に入り溯河するものであるが琵琶湖の小鮎は封陸型で、湖水で産卵する性質があるから、ここでも産卵したと思われる。更に研究すると有望である。更に下流の生瀬宝塚町に於てはオイカワ、フナ、ドンコ、カマツカ、カネヒラ、ギギ、ウナギ、タモロコ、ドジョウ等で三田と大差はない。ただ、最下流の河口近くで汽水魚チチブマハゼ、イナ、シマイサキ、アユ、ウナギ等も多い。